

平成20(2008)年5月24日第92号

学校だより

まずは、「聞く」(2) ～言語活動の中の教師の役割～

「口は1つで、耳は2つ。話すことが1で、聞くことが2の割合がちょうど良い。」という言葉聞いたことがあります。

教師が説明しているにもかかわらず、説明を最後まで聞くことができず、ついつい言葉を発してしまう子どもがいます。学齢の低い子どもの中で、物知りで、しかも頭の回転が速く、疑問に思ったことを口にしてしまいます。先生からは、「話を最後まで聞きましょう。」と繰り返し諭されます。写真と上記とは関係ありませんが、5月17日の授業参観で、再度、「聞く」という学習の原点を子どもたちの姿から見てとることができました。



授業を参観していると、「話すこと・聞くこと」の指導では、授業の内容も参観する人を意識してか、「表現する」こと、「話すこと」に重点が置かれている場合が多いように感じました。(聞き手は聞きっぱなしというわけではありません。)

低学年の場合は、「大事なことを落とさないようにしながら興味を持って聞く」ことを、繰り返し指導して、子どもに習慣づけさせることで、「話の中心に気をつけて聞く」中学年のねらいや、「相手の意図を考えながら話の内容を聞く」高学年のねらいにまで高めさせることができます。

教師自身は子どもたちに話を聞かせなければならないとともに、子どもたちの声をしっかりと受け止めなければなりません。優れた授業技術を持つ教師は、授業中に出てきた子どもの声(質問や教師の質問に対する応答)を聞き、ややもすれば消えてしまいそうな子どものつぶやきを拾い上げ、それを再び質問として子どもたちに返しながら学級全体で考えさせることができます。こうした感覚を磨くためには、時間の許す限り教師も子どもたちの中に入り話を聞き、一緒に活動することだと改めて思いました。

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

14925 Memorial Drive, Bldg A, Suite 130, Houston, Texas 77079

Tel. 281-493-1512 / Fax. 281-531-6730 (事務局 火～金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@airmail.net Home Page: www.jeihouston.org

「ひ・も・と」を大切に(4) ～「と」=時を大切に～

振り返ってみると、「ひ・も・と」を大切に(3)は1ヶ月前の4月26日に書いていました。日が経つのは早いもので、まさに「と」=時を大切にしなければいけないことを実感します。

(3)では、人の「ひ」に関し、不思議な人の縁について書きました。巡り巡って20年ぶりに教え子に再会した内容でした。

中学部以上の皆さんは、以下の内容を理解できると思いますので、目を通してみてください。小学部高学年の人で、わかりにくいところがある人は家の人に聞いてみてください。

さて、補習校では、常に人との出会いと別れが繰り返されます。一昨年夏は40人の転入がありました。昨年1年間、約60人が本校に転入し、ほぼ同数の転出がありました。全員に該当するわけではありませんが、年間の授業日数が約40日であることを考えると、毎土曜日に約3人との出会いや別れがあったこととなります。

今年の夏も小学部高学年や中学部の数名は帰国し、友だちと別れることとなります。この補習校で過ごす貴重な時間、友だちや教職員とのふれあいを大切にしたいものです。

また、補習校の教科学習は、日本で学習する時間の3分の

1から2分の1程度の大変短い時間で、盛りだくさんの内容をこなしています。限られた時間をいかに有効に使うかどうか

はその人次第になってきます。

「歳月人を待たず」、「光陰矢の如

(ごと)し」、「時は得難く失い易し」、

「時は金なり」のような、時を大切にするとえが頭に浮かんできます。

補習校での“出会いの時の大切さ”、毎週の“今この時の大切さ”をもう一度見直してみたいかがでしょう。「人」「物」「時」は別々のものでありながら、必ずや何らかの関係があるように。

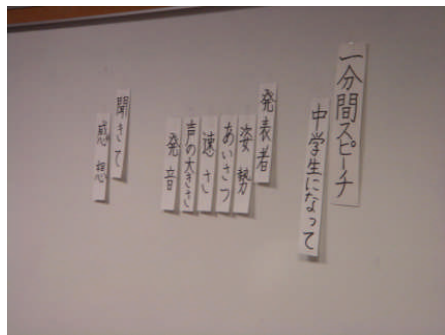
子どもたちに問いながら、自問自答しています。



1 分間スピーチ (2)

中学生になって1ヶ月（今月初旬の作品です）、中学部1年生は何に興味や関心を示し、なぜ、それに強く惹かれ、そして、それをどのように感じ取っているのでしょうか。

短い内容ですが中身は濃く、小学校と中学校の違いなどを様々な視点からとらえ、感想を述べていました。今回は(2)です。



教科書

山田 菊之介

僕は、教科書について話します。それは、中学生になってから教科書の数が急に増えたと感じたからです。

補習校の小学校では、三科目だけだったので、教科書の数は十四冊だけでした。ところが、中学生になってから科学が入ってきたり、小学校で習ったことをもっと詳しく勉強をしたり、教科書以外のワークブックや資料集も持って来るので、教科書の数が二倍に増えました。

中学生になってから教科書が急に増えたので、これだけ新しいことを学んだと感じました。そして、学んだことをノートにしっかり書いて、たくさんの知識を身につけたいと思いました。

これで僕の話が終わります。ありがとうございました。

新しいこと

三沢 輝璃

私は中学生になってうれしかった事について話します。それは、新しい物事を知ることができたことです。

小学校では、国語が苦手で、得意ではありませんでした。ある日、先生がことわざを発言し、私はそれが何の意味なのか分からなくて、家へ帰ってから調べなくてはなりませんでした。それが何回も続き、「なんで覚えられないんだろう。」と思いながらも調べ続けていました。

私が中学生になって、本を読んでいた時、たくさんしたことわざが出てきて、私がそれを目撃したとたん、意味が頭に浮かんできました。私は、自分自身

にびっくりしました。ずっとできなかった事が、すぐ頭に浮かんだからです。

小学生の時に分からなかったことが、中学生になって分かり、とてもうれしい気持ちになりました。これで私の話を終わります。ありがとうございました。

一分間スピーチ

大塚 淳平

こんにちは、ぼくの名前は大塚淳平です。

ぼくは、宿題のことについて話します。

なぜそれについて話すかというと、中学に入って、コンピューターを使い、調べることが多くなったからです。小学校では、日記やドリルでかんたんに宿題を終らせることができていました。しかし、中学では、新聞を読んで記事を書いたり、理科の学習をしたりで内容が濃くなってきましたし、自分で辞書を使って勉強したりで遊ぶ時間もなくなってきていそがしくなってきました。

小学校のことと中学校のことを比較して感じたことは、自分で何でも調べてやることが多くなり、スポーツで遊ぶ時間がなくなってきたことです。それに宿題が増えてけっこうむずかしくなったと思います。皆さんはどう思いますか。

これでぼくの一分間スピーチを終わります。ありがとうございました。

◆パトロール当番予定表 5月31日◆

～よろしくお願ひします～

学年	順位	児童生徒氏名
★AM1リーダー	小5	19 三浦 惇
	2	20 高野 沙織
	3	21 上杉 楓
	4	22 藤井 恵
	5	23 松村 佳奈
	6	24 東 和秀
★PM1リーダー	25	小野 渚
	26	高橋 帆乃華
	27	藤縄 郁花
	28	森 日向子
	29	フィッシャー さくら
	30	高橋 滯音



<ただ今、何人> 幼-47人、小1-30人、小2-44人、小3-37人、小4-38人、小5-38人、小6-32人、中1-22人、中2-17人、中3-17人、高1-9人、高2-7人、高3-3人、計341人

<転出> 金子千紗(小6B)さん、金子紗衣(小4B)さん あなたたちの笑顔はどこへ行っても周りを明るい雰囲気にする宝物ですよ。日本でも勉強、運動に勤しみ、身につけた英語を生かして活躍してください。お元気で、さようなら。